最終章　その１

私は強迫性障害について、当時スマートフォンもなく、文献などを読み色々と調べてみました。
そうすると、原因はストレスで発症することが多いとの事です。確かに、私は勉強のストレスは日々感じておりましたが、精神が病むほど思い詰められている自覚はありませんでした。
また、周りの方々はどうだったのかも不明です。

しかし、これはあくまでも医学的見解だということです。医学的な原因以外に絶対発症しないという証拠はあるのでしょうか。

そこで私は、医学的な意見だけにこだわらず、今まで体験したことや実際見てきたことを思い出し、１つの仮説が思い浮かびました。

それは家の念が影響しているというものです。

そのアパートは築５８年、様々な人々が色々な生き方をここでされてきたと思われます。１人１人の人生の中には様々な出来事がおこり、たくさんの喜びや怒り、悲しみ、苦しみを抱えながら必死に毎日を送ります。何人もの人が、この１つの建物で移り変わり、様々な人生を送っていたことを考えると、想いや念が蓄積するのは当然のことに思えたのです。

その念が家全体をまとい、動物や植物が自分自身を守ろうとするのと同じように家全体が自分を守ろうとしていたとしたらどうでしょうか。
家自体が自分自身を維持するため、住人の性格までコントロールしてしまっているとしたら。住人の強迫性障害と同じ症状により、きれいに保とうとしているとしたら。

そう考えるとすべてが一つの線に繋がったように思えたのです。思い返して頂きたいのです。

最初の２０１号室の女性。植木鉢からこぼれるほど水やりをしており、共用部を汚しているとみなされたのでは。そのため何かしらの症状が現れ、追い出されたとしたら。

また、２０３号室の男性、常に家をきれいにする方。家がこの男性をなるべく自分自身の中に閉じ込めようとしていたら。

次の２０１号室の親子。家を守るため、鍵の施錠を徹底させられていたとしたら。

そして、私の不潔恐怖。

全てが家を維持する行動と結びつかないでしょうか。個々の症状だけで考えると、単に強迫性障害で片づけられてしまうことも、より広い視点で見た時に別の作用が影響している可能性もあるということを私は自然と感じることができました。

ただ、この仮説はあくまで私の仮説です。清掃員の方が急に奇声をあげだした原因など結びつかない出来事もあります。